

水で繋がる安来と世界

～水資源から始まる地域創生～

令和5年8月13日
島根大学教育学部附属
義務教育学校
2年大屋 穂波

環境先進国
スウェーデン と **日本** は
～水資源編～

日本は世界的に見ても国民の環境問題への意識が低いと言われて
いる。そこで今回は環境問題にいち早く国として取り組み始めた
スウェーデンを対象に日本と水資源の保全や使い方について比較してみ
よう。

スウェーデン	日本
主な発電方法	
水力(43%)	火力(73%)
ラムサール条約登録湿地数	
68箇所	53箇所
ラムサール条約初回登録日	
1974年12月5日	1980年6月17日
SDGs達成度ランキング	
1位	21位

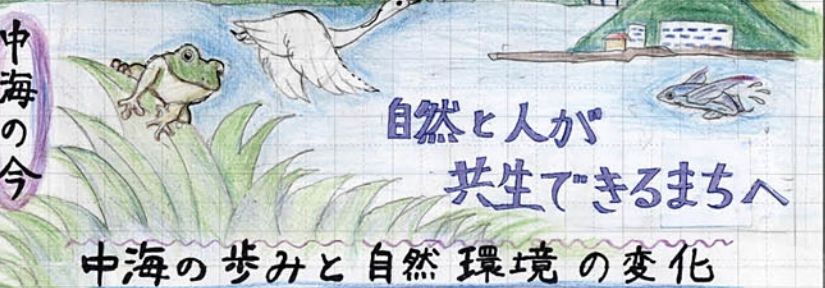
日本とスウェーデンでは
発電方法が大きく異なる
ことが分かった。スウェーデンは
再生可能エネルギーの代表例で
ある水力発電が約半分を占めて
いるのに対し、日本は化石燃料を
用いたCO2を多く排出する火力
発電が約半分の3を占めており
日本の環境問題への意識の低さ
が分かる。
ラムサール条約についても登録
湿地数に大差はないものの、
初回登録日には6年もの差が
あり、やはり日本は遅れを取っている。

地中海のラムサール条約とは？

ラムサール条約とは、1971年にイランの
ラムサールという都市で開催された
国際会議で採択された、湿地に関する
条約である。正式名称は「特に水鳥の生息地
として国際的に重要な湿地に関する条約」
という。島根県では宍道湖と中海が
登録されている。



私は毎日、自宅のある安来市から学校の
ある松江まで中海沿いを通って通学し
ている。今では何気なく通りすぎる
中海だが、幼い頃は家族で中海沿い
ドライブしたり、幼稚園の行事でエゾ
釣りをした思い出のある場所だ。また、
休日になると中海沿いには釣りの人
が集まっている。
そんな安来市民に愛される中海だが、
昨年とある一又ス番組で中海、ラムサール
条約登録から十七年という特集を見た
際に、高度経済成長期の茶色く濁り、ゴミ
が山のようにつまみかかっている中海の写真に
私は強い衝撃を受けた。
そこで私はどんなに汚れた中海か
どのような状況で市民の憩いの場と発展
したのか疑問に思い、調査することにした。



自然と人が 共生できるまちへ

中海の歩みと自然環境の変化

前述の通り中海はラムサール条約に登録されているが、その背景では行政や市民の
懸命な取り組みが行われていた。今回はその中海の歩みを水質(CODの値)と共に
紐解いていく。 777:中海の水質の経年変化



昭和20年の終戦後、島根県は深刻な米不足に陥り、昭和22年に湿地と真水を保つことを
目的に農協会で「国営千代田水産事業」が採択された。しかし、事業を進めようとした日本は
高度経済成長期に突入し、やがては米が余るようになり政府は新規の開田を禁止する減反政策を
開始。事業は行き詰まったもの、やはり農地として淡水化を目指す方針で果は事業を進めた。ところが、
漁業組合や近隣の住民の強い反対により、計画は中止となり水門の撤去も行われた。
上のグラフにはないが、高度経済成長期における生活排水のたれ流しと淡水化計画が
行われていた昭和30年～昭和60年の20年間は水質汚染が特に深刻で「アノガヤ」や「マダケ」等の
生き物や海藻の激減の他、硫黄酸塩が出現するなど生態系にも大きく影響を及ぼした。
それ以降も淡水化による赤潮、アノガヤの大量発生やハゼの大量死など影響は長引いたが、
公共下水道の整備や市民の努力により水質は改善され平成23年頃からはほぼ元の数値が
続いている。

**水質改善に向けた
命の取り組み**

インタビューで
お話を聞いた方
安来市役所環境政策課
永島 美奈子さん
井上 幸雄さん

想父母へインタビュー

祖母 A 一期(高度経済成長期)よりは大き
な影響を受けた。すくも臭いが酷い時期
もあった。
祖父 A 昔は中海で泳げない一回汚れてしま
うと元には戻らないという話を
身を持って学んだ。
祖母 A 中海の水質を保つために
正直計画には反対だった。たにすえ汚
ったのにこれ以上手を加えるのを生態系に
悪影響だと感じた。
祖父 A 当時誰か連署をしないといけないが、たに
淡水化してさらに汚れないか心配だった。
祖母 A これから中海は安来にとどまるよ
うな存在にしていきたいですか？
祖母 A 市民同士の交流をつくるきっかけで
子どもたちへの教育もしてほしい。

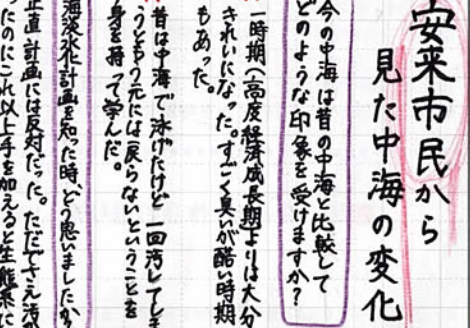
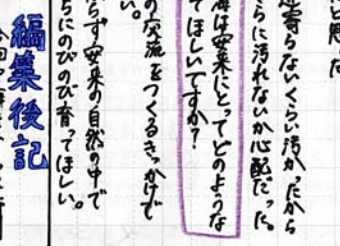
編纂後記

今回中海をテーマにした新聞
を作成するにあたって歴史
やデータ、地形など各方面
からアプローチしたこと
を通じて見えてきたこと、
今の中海の詳細な部分
を知ることで、皆さんも
この学びを生かして今後
は学校で取り組んでい
てほしい。

中海の今
八月十二日の午後、私は家族で十神山
なぎさ公園にゴミ拾いに出かけた。小学四年
生の秋に学校の総合の時間で行って以来、
五年ぶりのなぎさ公園でのゴミ拾いだ。だが、
私が想像していたより、ゴミは少な
くとも驚いた。
何より印象に残ったのは、ゴミの種類が五年前
と比べてかなり変化が分かったこと。なぎさ
公園にはキヨウガクヤやカインズなど、なごら
やモバイルショップが並ぶ。新しいコンビニエ
ンスストアも増え、ゴミの量も増えている。ゴミ
の削減は、ゴミの分別や、ゴミの量を減らす
のがいいと指摘された。ゴミの中から、資源
の書かれたリサイクルマークの紙が混入
している。近年はゴミの減量や、中海の保全は
近隣の住民の力だけでなく、中海の保全は
これも重要だ。
公園の管理側の方は、
ゴミの削減に努力をされているが、朝
などにはゴミ拾いをする人が近
年急増していることが大きいと感じ
ておられた。私も地域の清掃
活動等に参加して安来市の
環境保全に貢献したいと思
った。

**Q 主に農村の集落で使われ
ている合併処理浄化槽や
コミニティプラントに
水質汚染の原因となる
Q 公営下水道の整備
は必要なのですか？
A 主に公営下水道等の整備
「河川の護岸工事」有機
農業の普及「清掃活動」
「水質改善」の活動が
中心に活動しています。**

**Q 中海の水質を保全する
ために私たち市民がする
ことはありますか？
A 日々の生活の中でも洗
濯の節約、米のゴミを
しっかりと分別して捨
てること、また、自分
のゴミもきちんと分別
することです。**



**安来市民から
見た中海の変化**

Q 今の中海は昔の中海と比較して
どのような印象を受けますか？
祖母 A 一期(高度経済成長期)よりは大き
な影響を受けた。すくも臭いが酷い時期
もあった。
祖父 A 昔は中海で泳げない一回汚れてしま
うと元には戻らないという話を
身を持って学んだ。